

# 海外とテレビを通じて交流

大阪府松原市立  
布忍小学校

頻りに活用されている。特に布忍小学校には、メディアセンターのサーバーが置かれ、ネットワークの核となっていることもあり、他校にも増して積極的な取り組みを見せている。昨年度は、六年生が遠く予定の中学校とテレビ会議を行い、中学生活について質問するなど、交流が深められたほか、今年度は植物の観察記録をWeb上で公開し、他県の「学校インターネット」指定校と成長の様子を比較する授業も計画中だ。

色鮮やかな着物を着た女の子が畳の上に座り、茶道の手ほどきを始める。その前には、テレビ会議システムのリモコンとスクリーン。スクリーンには、海外の子供たちが興味深げに画面を覗き込む様子が映し出されている。回線をつながれているのは、百二十五年の歴史をもつ大阪府松原市立布忍（ぬのせ）小学校（徳田喜代士校長、児童数五百二十八）とイギリスのロンドンフォード小学校。「お茶」というテーマで互いの文化を発表し合う交流学習の一場面だ。

布忍小学校の五年生がこの実践に取り組んだのは、昨年度の「総合的な学習の時間」。同校の児童たちは茶道の作法や歴史に関する情報を、一方の相手校ロンドンフォード小学校の児童たちと二つな交流している。回線をつながれているのは、百二十五年の歴史をもつ大阪府松原市立布忍（ぬのせ）小学校（徳田喜代士校長、児童数五百二十八）とイギリスのロンドンフォード小学校。「お茶」というテーマで互いの文化を発表し合う交流学習の一場面だ。

色鮮やかな着物を着た女の子が畳の上に座り、茶道の手ほどきを始める。その前には、テレビ会議システムのリモコンとスクリーン。スクリーンには、海外の子供たちが興味深げに画面を覗き込む様子が映し出されている。回線をつながれているのは、百二十五年の歴史をもつ大阪府松原市立布忍（ぬのせ）小学校（徳田喜代士校長、児童数五百二十八）とイギリスのロンドンフォード小学校。「お茶」というテーマで互いの文化を発表し合う交流学習の一場面だ。

布忍小学校の五年生がこの実践に取り組んだのは、昨年度の「総合的な学習の時間」。同校の児童たちは茶道の作法や歴史に関する情報を、一方の相手校ロンドンフォード小学校の児童たちと二つな交流している。回線をつながれているのは、百二十五年の歴史をもつ大阪府松原市立布忍（ぬのせ）小学校（徳田喜代士校長、児童数五百二十八）とイギリスのロンドンフォード小学校。「お茶」というテーマで互いの文化を発表し合う交流学習の一場面だ。

## 教材の選択肢増える

### e/Kokoroメディアセンターを中心に



動を展開している。学校間は、光ファイバーやDSL、FWA網（無線通信）といった様々な通信手段でメディアセンターと結ばれており、各校では大容量データの送受信による動画の受信やテレビ会議、インターネットなどがテレビ会議でイギリスの子供たちと交流し、インターネットを活用した調べ学習

を果たしているほか、多様な教材の数々をサーバーに備え、各校の実践に貢献している。地域の伝統工芸を動画で解説した「ターナー」や英語の発音訓練ソフト、算数のドリルなど、その種類はさまざま。動画や音声を用いた教材も、エリア内の学校であれば随時間でダウンロードできる。こうした教材の制作には、各校の教員が携わっているほか、地元企業で組織された「先進的教育情報環境整備推進協議会」が技術面での支援を行っている。また、協議会では、IT講習会での人材派遣や教材の貸し出しを行うなど、学校の実践を多方面からサポートしている。

ネットワーク整備以降、エリア内の学校では授業でのパソコン利用頻度が飛躍的に伸び、校内LANの整備も進んだ。また、教員のパソコン所有率が上がるなど、教える側のリテラシーも確実に向上している。山本教諭は、「今までは情報教育イコール「取り組み」というイメージ。でも、これからは、自然な感覚で授業に取り入れていく必要がある」と語る。教員が当たり前のように入力したり、子どもたちがパソコンに向かって授業を受ける——そんな光景が全国各地で展開される日も、そう遠くはないのかも知れない。

フリーライター・佐藤明彦  
同校所在地 〒580-1023 大阪府松原市南新町一六一七-1105  
TEL 072-0001-2411  
E-mail: http://www.e-kokoro.ed.jp/katsubara/minuse/